

# 2020年6月7日 COVID-19における病院経営への影響調査



2020年9月  
VHJ研究会

問合せ

*VHJ*

〒102-0074  
東京都千代田区九段南2-2-3九段プラザビル5A  
Tel: 03-6261-2441  
E-mail: [info@vhj.jp](mailto:info@vhj.jp)  
担当: 松本義幸

VHJ研究会はCOVID-19感染拡大による病院経営への影響について、先般 4月、5月分の調査を実施。

この度、6月、7月分の影響について調査を実施

対象病院数 : 31 回答病院数 : 29 (病床数217~1166床、平均550床)

調査機関 : 8月7日~8月20日 インターネットで調査票を送付、回収

#### [結果概要]

○6月、7月は4月、5月より赤字幅が縮小してきたとは言え

全体として2020年は2019年と比べて依然として赤字である(4、5頁参照)

○入院患者数(9頁参照)、外来患者数(8頁参照)、救急受入件数・手術件数

(10頁参照)が回復してきたが、どの項目も対前年同月比で何れの月も減少している。

○入院収入、外来収入とも増加してきているが、対前年同月比でほとんどがマイナスである。

(6頁参照)

○COVID-19を受け入れていない病院(8)と比べ受け入れている病院(21)の医業利益率は依然としてマイナスである。(11頁参照)

#### [結論]

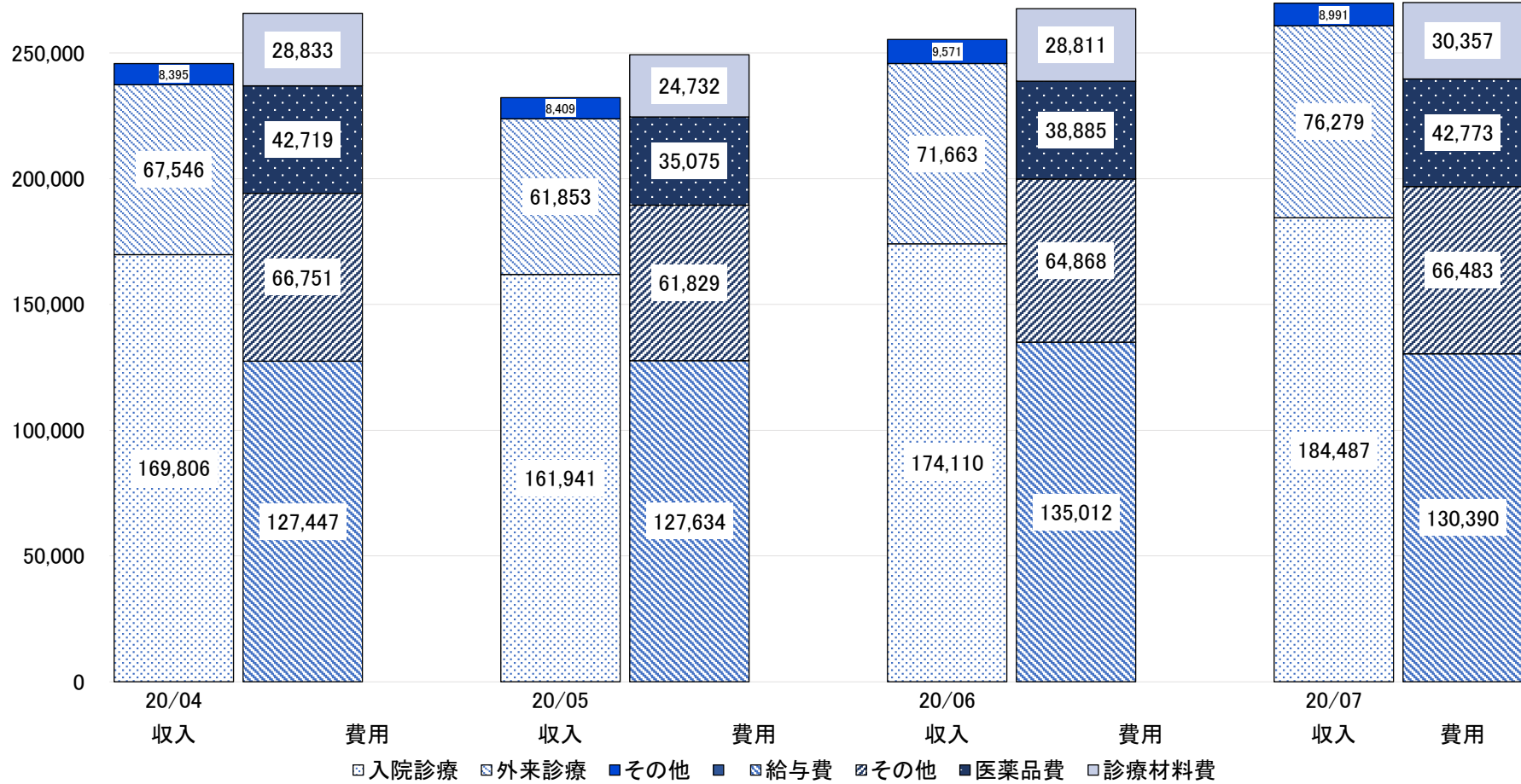
以上のことから6月、7月と病院経営に改善の兆しが見られるもののCOVID-19感染拡大により病院経営が依然として厳しい状況におかれていることが明らかになった。

(注) 今回の資料と7月の公表資料と数値が違っているのは、各病院で今回の調査時に過去のデータを見直したことによる

VHJ研究会は、国民のQOL向上の使命感を携えた地域医療の中核を担う民間病院が、「質の高い医療は公的病院や大学病院が担うべき」との認識に対する危機感を共有し、1993年に発足。医療の質向上や病院経営等の分野で、会員機関それぞれの持つ優れた点を自院の業務に活かす自主的な活動を展開している。

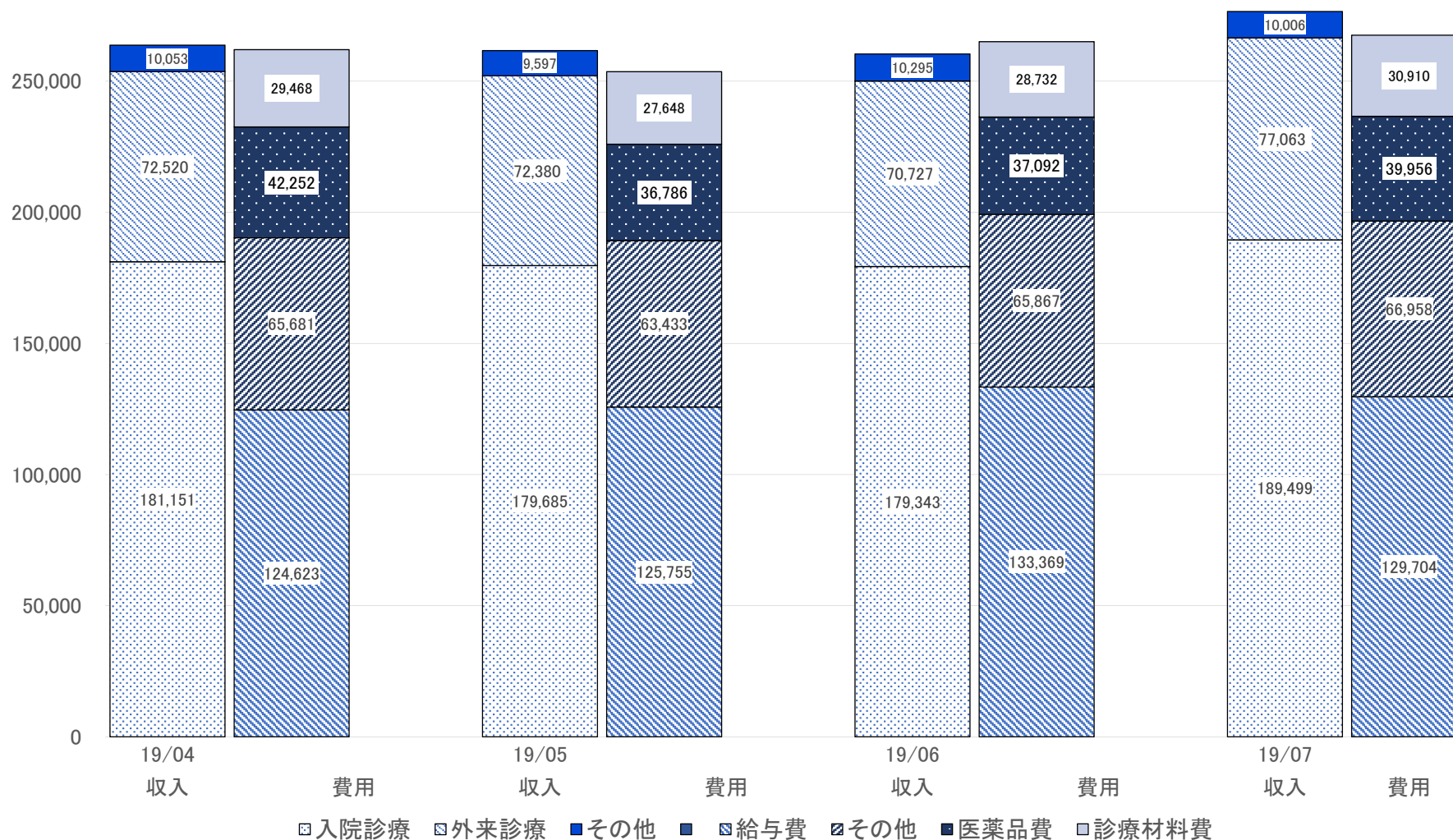
当研究会は急性期機能を有した地域中核病院が主体となっていることから、COVID-19感染拡大でも29病院中21病院が患者を受け入れている。

医業収入と費用比較(千円) 2020年 100床当り平均(データのない箇所は除く)



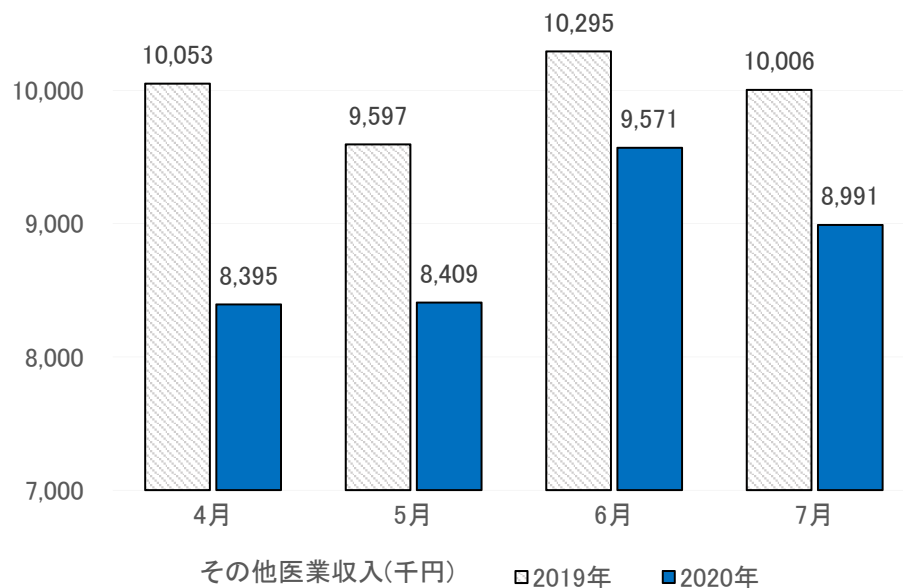
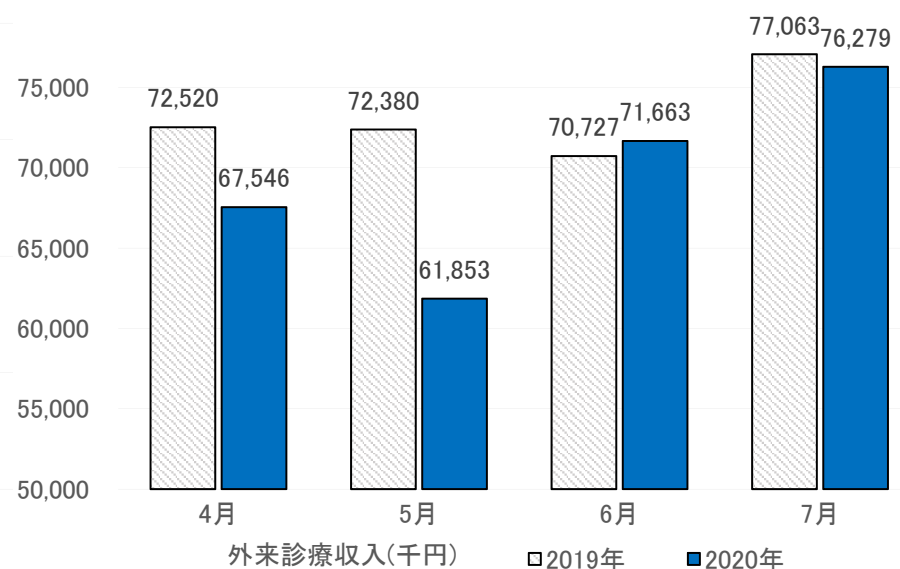
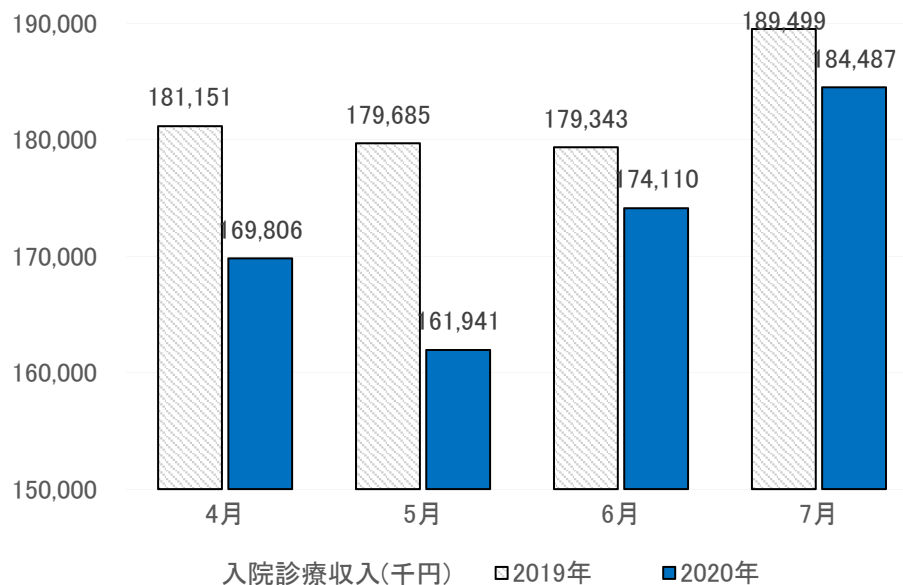
○医業収入と費用を比較すると2020年4月、5月、6月と収入より費用が上回っている。  
7月になり収入と費用がほぼ均衡

医業収入と費用比較(千円) 2019年 100床当り平均(データの無い箇所は除く)



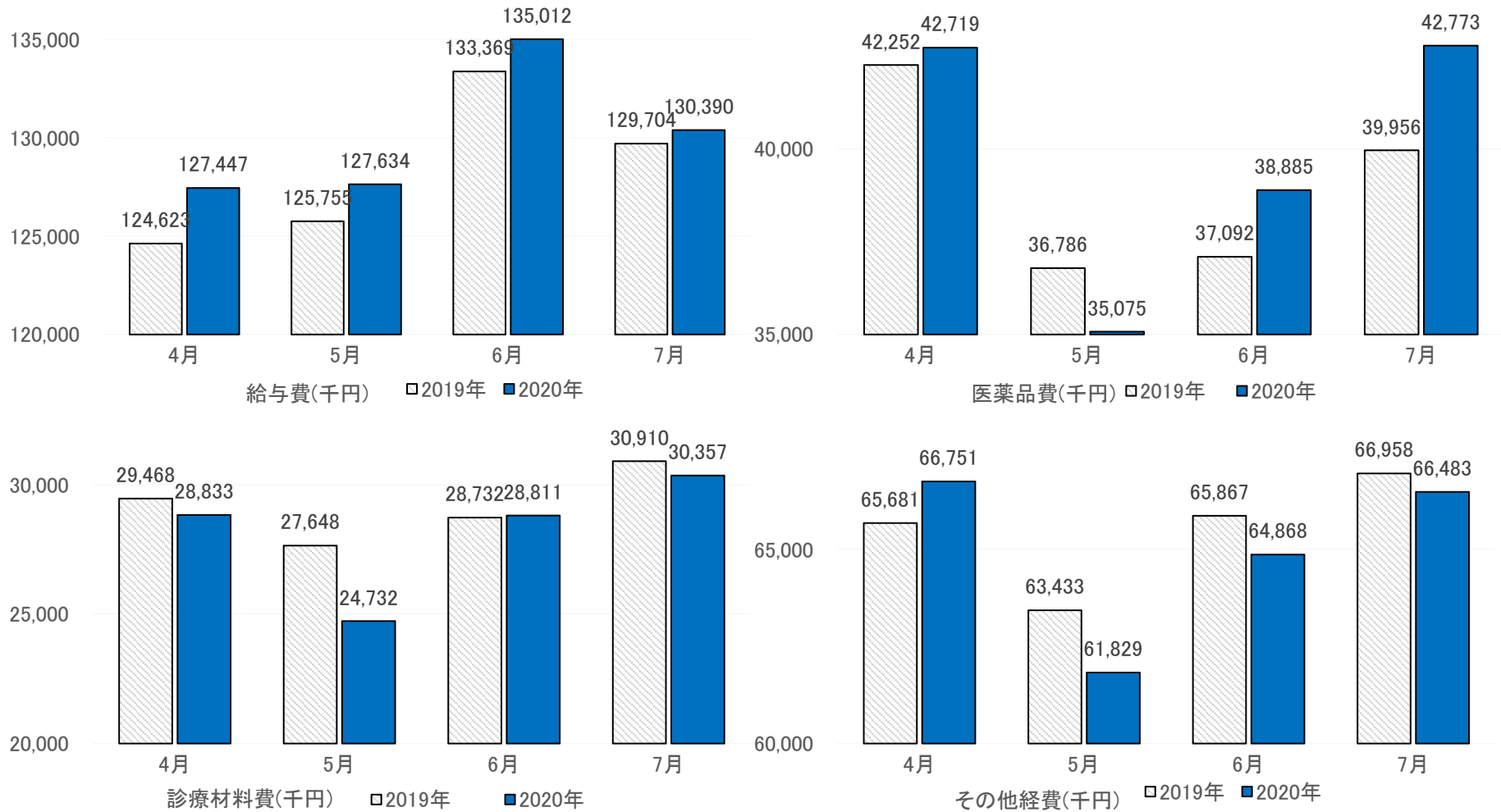
○2019年は6月を除き4月、5月、7月は収入が費用を上回っている。

# 収入 前年同月比較 (4月～7月) 100床当り平均(データのない箇所は除く)



- 入院収入を前年同月比で見ると4月が6.3%、5月は9.9%減少  
6月は2.9%、7月は4.7%減少
- 2020年の対前月比で見ると5月は4.6%減少したが  
6月は7.5%増加、7月は3.7%増加
- 外来収入も前年同月比4月が6.9%減少、5月は14.5%減少  
6月は1.3%増加、7月は3.1%減少
- 2020年の対前月比で見ると5月は6.5%減少  
6月は15.9%増加、7月は4.2%増加
- 健診等のその他医業収入でも前年同月比で  
4月、14.8%減少、5月、13.4%減少  
6月、7.0%減少、7月、12.1%減少

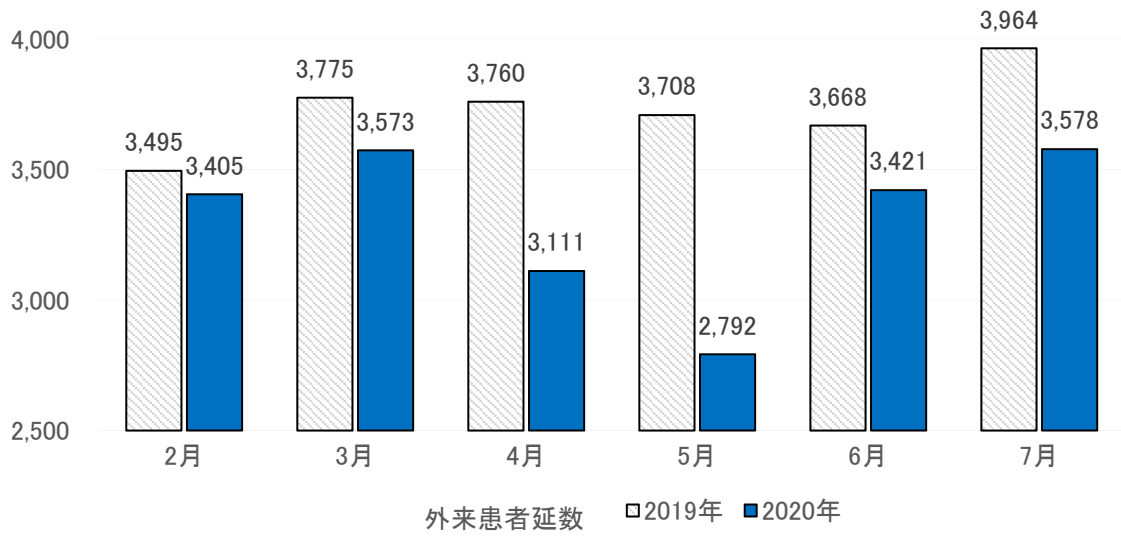
費用 前年同月比較 (4月～7月) 100床当り平均(データの無い箇所は除く)



費用について前年同月比でみると

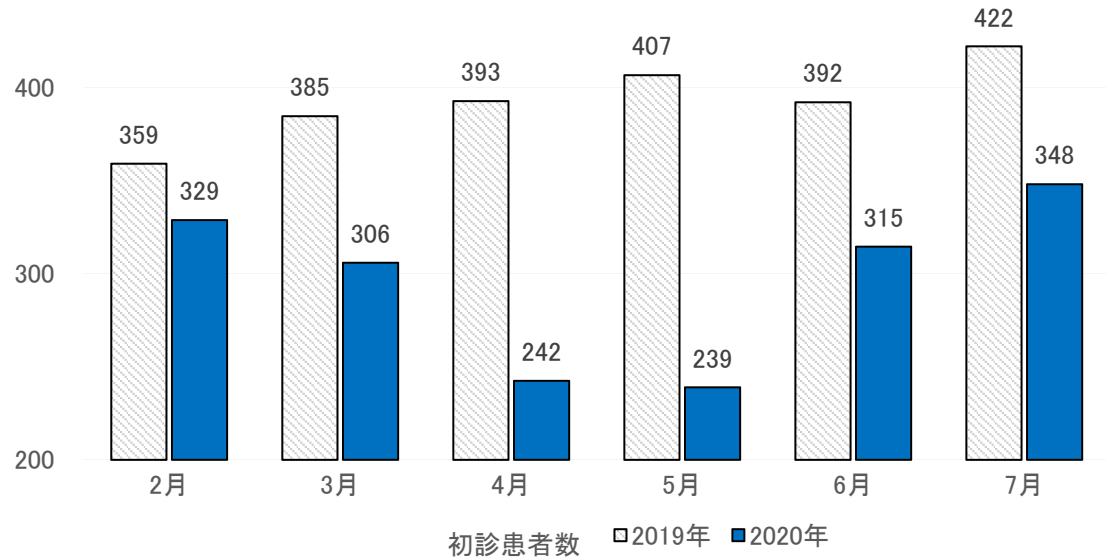
- 給与費は4月、2.9%、5月、1.5%、6月、1.2%、7月は0.5%と増加。 2019年、2020年とも6月が伸びているが夏季賞与のためと思われる
- 医薬品費は5月が4.7%減少しているが6月、7月はそれぞれ4.8%、7.1%増加。 2020年4月からの増減率をみると5月、16.3%減、6月、10.9%増、7月、10.0%増
- 診療材料費は4月、2.2%減、5月、10.5%減、6月、0.3%増、7月、1.8%減となっている
- 2020年の増減率をみると5月以降増加している。

外来患者統計 前年同月比較 (2月～7月) 100床当り平均(データのない箇所は除く)



外来患者数は2月から7月まで調査

- 外来患者延数は前年同月比で何れの月も減少  
特に5月は24.7%と大きく減少したが6月、6.7%減、7月、9.7%減と減少幅が縮小
- 前月比をみると4月、12.9%減、5月、10.3%減6月、22.5%増、7月、4.6%増と増加に転じた

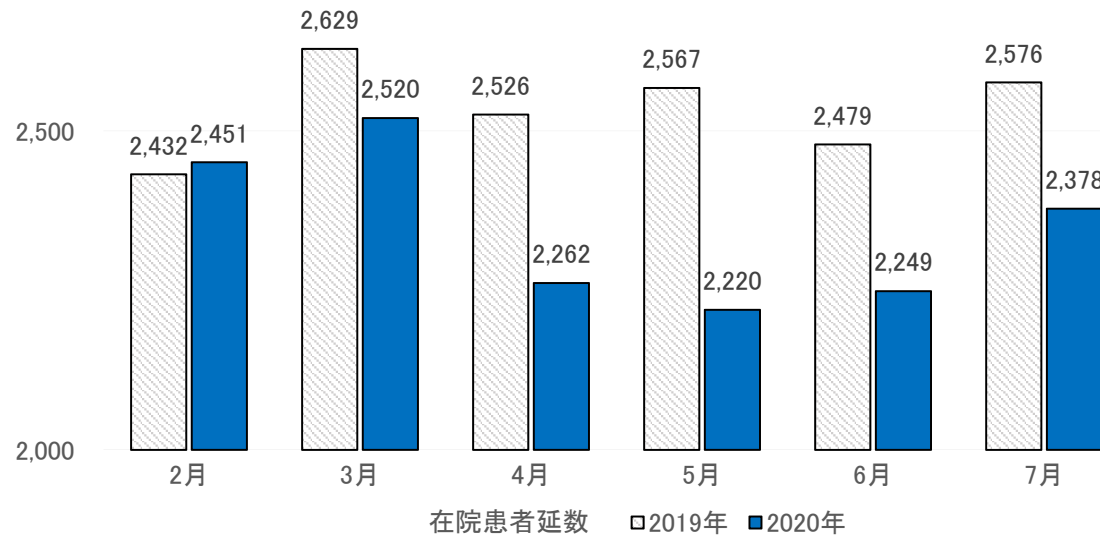


- 初診患者数も前年同月比で何れの月も減少。  
特に4月、5月は約40%と大きく減少6月、19.6%減少、7月、17.5%と減少幅が縮小

- 前月比でみると6月、31.8%増、7月10.5%増となっている。

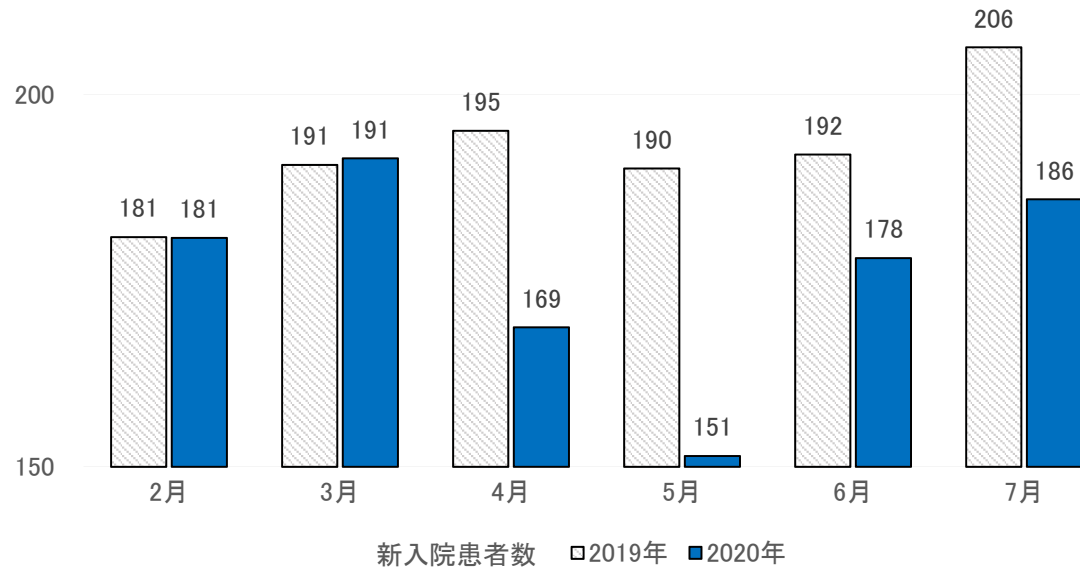


入院患者統計 前年同月比較 (2月～7月) 100床当り平均(データのない箇所は除く)



入院患者数は2月から7月まで調査

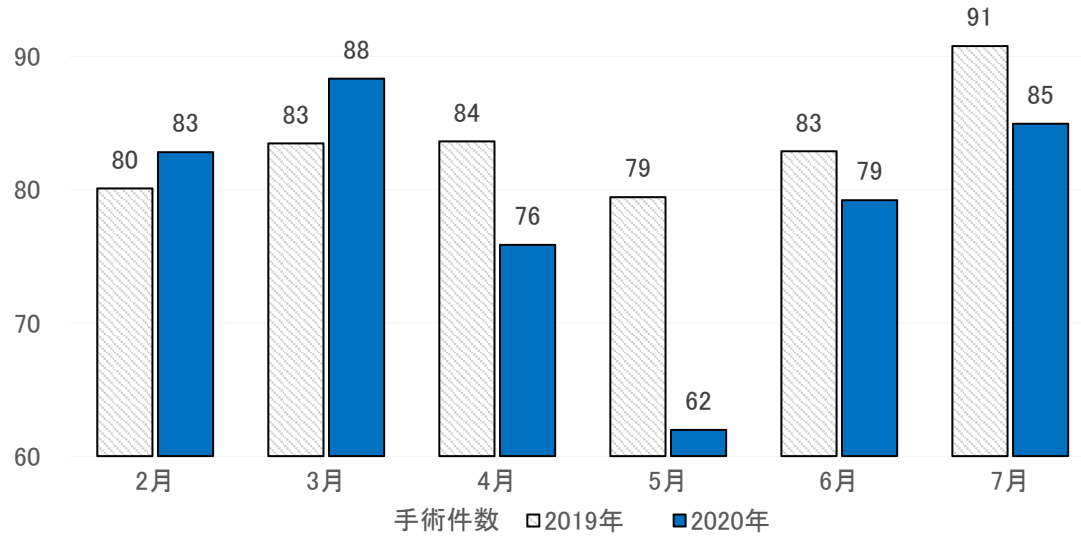
- 在院患者延数は前年同月比で  
3月以降何れの月も減少  
5月が13.5%と大きく減少  
6月、9.3%減、7月、7.7%減と減少幅が  
いくらか縮小



- 新入院患者数は前年同月比で  
4月以降何れの月も減少、  
5月は20.5%と大きく減少したが、  
6月、7.3%減、7月、9.7%と減少幅が  
いくらか縮小

- 前月比で増減率をみると6月、17.9%増、  
7月、4.5%増となっている。

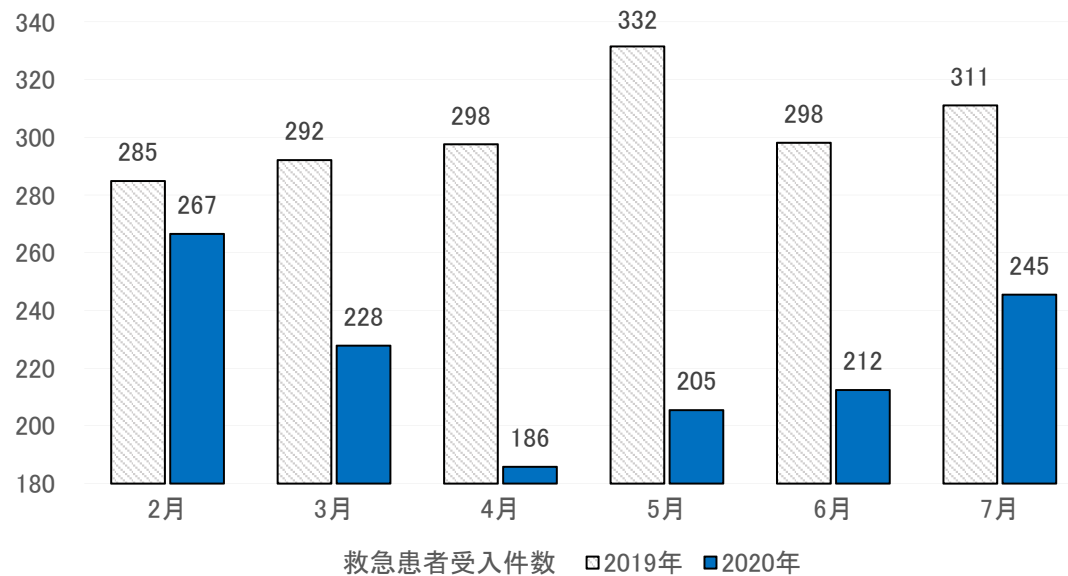
手術件数、救急患者受入件数 前年同月比較 (2月～7月) 100床当り平均(データのない箇所は除く)



手術件数、救急患者受入件数も  
2月から7月まで調査

○手術件数は前年同月比で5月、21.5%と大きく減少するも  
6月、4.8%減、7月、6.6%減と減少幅が縮小

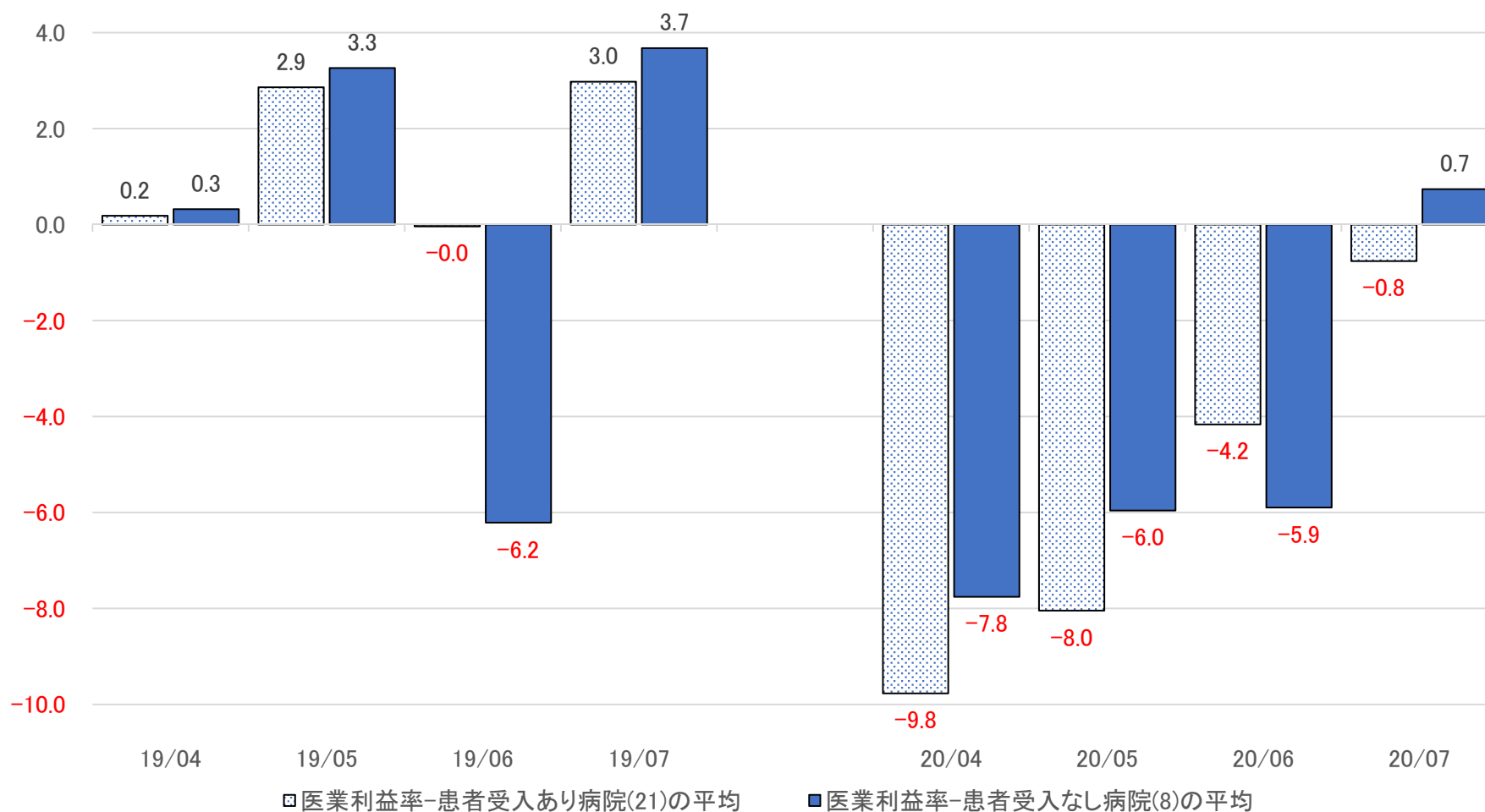
○前月比でみると6月は27.4%増、  
7月、7.6%増と増加している。



○救急患者受入件数は前年同月比で  
2月から7月まで何れの月も減少  
特に5月は38.3%と大きく減少したが  
6月、7月は減少幅が縮小

○前月比で増減をみると4月以降、  
少しずつ増加

## 医業利益率(医業利益/医業収入) 単位%



調査回答29病院中21病院がCOVID-19感染患者を受け入れている

医業利益率(医療利益/医業収入)は昨年と比べ大きくマイナスになっているが6月、7月とマイナス幅が縮小してきている。

しかし、7月の医業利益率は受け入れていない病院がプラスになっているが、受入病院は依然としてマイナスである。

## 調査回答病院

手稻溪仁会病院	田中 繁道
北斗病院	鎌田 一
日鋼記念病院	柳谷 晶仁
竹田総合病院	竹田 秀
恵寿総合病院	神野 正博
日立総合病院	渡辺 泰徳
相澤病院	相澤 孝夫
河北総合病院	河北 博文
亀田総合病院	亀田 隆明
木沢記念病院	山田 實紘
松波総合病院	松波 和寿
聖隷浜松病院	岡 俊明
トヨタ記念病院	岩瀬 三紀
洛和会音羽病院	矢野 一郎
京都岡本記念病院	岡本 豊洋

北摂総合病院	木野 昌也
淀川キリスト教病院	石田 武
北野病院	吉村 長久
ツカザキ病院	塚崎 高志
津山中央病院	藤木 茂篤
倉敷中央病院	山形 専
H I T O病院	石川 賀代
近森病院	近森 正幸
大分中村病院	中村 太郎
飯塚病院	麻生 泰
聖マリア病院	井手 義雄
今村総合病院	今村 英仁
浦添総合病院	福本 泰三
友愛医療センター	新崎 修